

令和8年度 地域包括支援センター独自の重点取り組み事項

資料 2

南部	・令和7年度圏域地域ケア会議で検討課題となった竹林区の移動支援について、地域支えあい推進員と連携し、地域住民と共に活動を開始する。 ・チームオレンジを設立し、活動をスタートする。 ・男性介護者交流会から、男性同士のつながりが広がるような活動を検討する。
小牧	1. 制度の狭間の方（8050問題・生活困窮・介護・障害・子どもへの支援等）について法人内でも課題を共有し適切な支援にあたる。 2. 重層的な課題（本人・家族も含めた複数の課題）を抱える世帯に対して、こまきつながる会議（市福祉総務課所管の多職種による支援内容検討会議）への参加などを通し適切な支援につなげる。 3. 地域ケア個別会議で抽出された課題は、地域の住民にとって身近な問題として捉えていただけるよう、ふくし座談会等の場で情報共有を図る。 4. 西部圏域での地域活動として、西部コミュニティーセンターで季節ごとに開催されるイベントに参加し、介護予防や認知症支援に関する啓発を実施する。 5. 中部圏域での地域活動として、民生委員が不在となる地域の介護予防実態把握事業回答者に対して、アウトリーチで相談を伺い、課題や必要な地域資源を調べる。 6. 認知症当事者の思いを実現するため、チームオレンジの活動の支援を行う。チームオレンジの活動への支援を通じて、認知症になっても住みやすいまちづくりを目指す。
味噌	①生成AIを活用した業務効率化と、地域支援力の強化 生成AI等の活用により、相談記録の要約、会議資料作成、社会資源情報の整理などを効率化し、事務作業時間の削減を図る。その結果として、訪問支援や関係機関連携、地域活動への参画時間を確保し、支援の質の向上につなげる。AI活用にあたっては個人情報保護を最優先とし、安全な運用ルールを整備する。 ②独居・高齢者のみ世帯を見据えた「相談しやすい」センター運営 地域住民・民生委員・医療機関・介護事業所との連携を一層強化し、支援が必要な高齢者の把握に努める。また、出前講座や地域行事への参加を通じてセンターの周知を図り、「まずは相談してみよう」と思える環境づくりを進める。
篠岡	・商業施設での相談会について、相談件数が少ないことや現在の場所の利用が難しくなっているため、相談会場の移転を検討していく。 ・昨年度末に発足したチームオレンジの活動への支援を継続していく。 ・認知症予防ゲームの定期開催、認知症予防ゲームリーダーや介護予防リーダーへの活動支援などを通じて介護予防の普及に取り組む。
北里	① 北里圏域の地域課題を住民や地域の支援機関と共有すると共に、介護予防となる地域の活動を支援する。 ② 「認知症予防プログラム」「みんなの認知症予防ゲーム」の取り組みを、医療機関、薬局、介護事業者等と協力し、地域で展開できるよう連携を図る。 ③ 認知症地域支援推進員がチームオレンジコーディネーターとして更なる活動機会の充足と地域協議会メンバーの福祉活動をサポートしていく。 ④ 消費者被害が多発しており、警察と共同し防止策啓発を行っていく。 ⑤ 歩行分析AIによる歩容や転倒リスク評価を元に運動プログラムを個別指導する介護予防プログラムと医療機関の理学療法士による介護予防プログラムを年間6回ずつ実施する。 ⑥ 地域課題である「移動支援」については、昨年開始した福祉有償運送サービスの効果検証の実施を行い、他資源についても検討していく。 ⑦ 支え合い地域推進員、地域住民、チームオレンジの協力を得て、認知症出前カフェとして地域に出向く。

（令和8年度小牧市地域包括支援センター事業計画書より抜粋）